

研究指導の概要

■社会文化創造研究科（総合文系学位プログラム）

【課程：修士期課程】

学年	学期 モジュール	研究内容及び指導方法等
1 年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションで修士課程の履修方法、研究スケジュール、研究指導計画書の提出方法などについてのガイダンスを受ける。 ・学生の所属コース（プログラム）をもとに、正指導教員、副指導教員（2名）を決定する。副指導教員2名のうち1名は、指導の専門性を担保するため、主指導教員と同じ、または専門的関連性の強い研究教育分野の教員を充てる。副指導教員のもう1名は、学際的な指導を担保するため、他プログラム又は、他コースの研究分野の教員とする。 ・学生は1年間の研究計画を検討し、研究指導計画書を提出する。その研究計画書に対して、主指導教員や副指導教員との意見交換を行い、主指導教員は研究指導計画を決定する。 ・社会文化創造論Ⅰを履修し、「文化」を「社会」との関連の中で俯瞰的に捉える視点を学び、現代社会が直面する課題についての分析スキルを身につける。 ・専門科目や研究指導関係の授業を履修し、研究の課題と視点や方法を深化させる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・社会文化創造論Ⅱを履修し、課題探究型学習を通して課題解決に向けて行動することができる実践力とコミュニケーション能力を身につける。 ・専門科目や修士論文（特定の課題）の研究に関わる授業科目や演習科目を履修する。 ・指導教員や関連教員より修士論文（特定の課題）の作成に向けての研究指導を受ける。 ・可能であれば、修士論文（特定の課題）に関するテーマについて、学会発表、学術雑誌等への投稿、展覧会・演奏会等で成果を発表する。 ・学期末に研究指導計画書の達成状況を確認する。
2 年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・学生は1年間の研究計画を検討し、研究指導計画書を提出する。その研究計画書に対して、主指導教員や副指導教員との意見交換を行い、主指導教員は研究指導計画を決定する。 ・専門科目や修士論文（特定の課題）の研究に関わる授業科目や演習科目を履修する。 ・指導教員や関連教員より修士論文（特定の課題）の作成に向けての研究指導を受け、修士論文（特定の課題）を具体化、執筆・制作等を始める。 ・可能であれば、修士論文（特定の課題）に関するテーマについて、学会発表、学術雑誌等への投稿、展覧会・演奏会等で成果を発表する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目や修士論文（特定の課題）の研究に関わる授業科目や演習科目を履修する。 ・指導教員や関連教員より修士論文（特定の課題）の作成に向けての研究指導を受け、修士論文（特定の課題）の執筆・制作等を進める。 ・修士論文（特定の課題）の中間発表会（10月頃）を経て、修士論文（特定の課題）の執筆・制作等を進め、完成させる。 ・学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査基準をもとに、修士論文（特定の課題）提出要件を確認する。 ・修士論文（特定の課題）の最終審査を受ける。 ・合格の場合、学位が授与される。